

国際ロータリー第2560地区
ガバナーテーマ

再生・新生・共生

高田ロータリークラブ
今年のスローガン

ロータリーを楽しもう！
夢と誇りをもって



2022-2023年度

国際ロータリー会長 ジェニファー・ジョーンズ
第2560地区ガバナー 高橋 秀樹
高田ロータリー会長 高橋 正彦
幹事 飯塚 宏佳

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号
TEL (025)526-3288 FAX (025)526-3534
メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp
例会場：デュオ・セレッソ TEL(025)526-3111

広報・会報・雑誌委員会：
伴 長門・齋藤俊幸・藤林陽三・出澤英則

第 28 回例会 3 月 17 日(金)

No.28

会長挨拶 ●高橋正彦



皆さんこんにちは。

早くも東京では、14日に桜が開花したと発表されました。春が来たなと感じる季節になりました。毎年多くの方が、桜がいつ開花するか楽しみにしていると思います。

桜の花が早く咲くか、遅く咲くのかは気温が大きく影響するようです。桜の開花予想の計算式にはいろいろあるようですが、気温との結びつきが強いようで、多く用いられているのは、400℃の法則・600℃の法則が多いようです。400℃の法則は、2月1日からの日々の平均気温を足して400℃に達した頃に開花する

というもの、600℃の法則は、2月1日からの日々の最高気温を足して600℃になる頃に開花するということです。春先に温かいと早く咲きやすいようですが、そうでもないようです。

桜の開花のメカニズムは、夏に次の春に咲かせる花の芽ができ、秋には葉を落とし、冬の初めに花の芽はいったん休眠に入り、真冬の寒さにさらされると、花の芽は目を覚まし、温かさによって春に開花します。真冬に一定期間寒さにさらされるということも、桜の開花には必要なようです。過去には記録的な暖冬により、休眠打破がうまくいかず、3月の気温が高めで開花が遅れ、開花しても満開にならない現象が温暖な地域で起こっています。今後さらに高温化が進むと他の地域でも桜の咲き方に異変が起こるかもしれません。これからも桜の花見を楽しめるように桜にはしっかり目を覚ましてシャキッと花を咲かせてほしい。その為には冬の寒さも必要と言えそうです。高田の桜の開花予想は3月28日です。今から楽しみです。

本日の卓話は、有限会社穂海農耕・株式会社穂海の代表取締役 平井雄志様です。演題は「農場からシンカ」する穂海グループのビジネスモデルです。ご清聴お願いします。

出席報告

出席率 100%

ビジター

渡邊茂雄様（上越信用金庫 高田中央支店長）

ニコニコBOX紹介

吉原耕一君：ロータリーの友3月号の川柳欄に掲載されました。「天」の賞までいただき感謝！感謝！です。

セレモニー

2023-24 年度委嘱状：地区諮問委員 大谷光夫君
米山功労者表彰：遠藤 巖君・西脇 薫君・笹川 裕
君・山崎公一君・小池猛紀君

委員会報告

山田会長エレクト：2023-24 年度 PETS 参加報告

会員インフォメーション



吉田進一君：退会の挨拶

幹事報告

配布物：会報No.27、抜粋のつづり
報告：次週 3/24 は休会日

卓話 「農場からシンカ」する穂海グループのビジネスモデル



有限会社穂海農耕・株式会社穂海 代表取締役 平井雄志氏

どの産業においても課題はありますが、農業の課題といえば、食料自給力の低迷と後継者不足でないでしょうか。そんな課題に向かうべく穂海農耕（以下、農耕）は 2005 年に設立されました。「農場からシンカ」して（シンカには、進化、新化、深化、真価が含まれます）、「地域の担い手として農地を引き継ぐこと、日本の食料自給に貢献すること」の実現を目指す会社です。お蔭様で、今年の耕作面積は 220ha を超えました。

農耕は約 10 品種の米を作付けし、品種毎に必要な作業を分散させ、機械稼働率の極大化と必要人員の極小化を実現しています。栽培・生育・作業記録の徹底により栽培 PDCA のしくみを回し、栽培技術と作業効率を年次で改善させています。また、輸入穀物、ひいては国内食品価格が高騰する中、耕畜連携を絡めた飼料作物の本作化を追求していきます。

さらに、農耕は穂海（以下、穂海）と穂海耕研（以下、耕研）という子会社を運営しています。穂海は農耕の米のみならず、全国の生産者の米も集荷販売しています。農耕以外の米も販売することで、取扱量を増やし、顧客企業との価格交渉力向上、また取引を通じて得られる情報の質量向上を狙っています。一方、耕研は農耕が大規模化する過程で得た経験を「農場経営支援サービス＝コメプロ」として、これから規模拡大に挑む全国の生産者にサービス提供しています。コメプロによって、顧客生産者がその地域の担い手として農地を引き継いでいく、そのお手伝いが出来たら嬉しく思います。

このように、農耕に「つくる」、穂海に「つなぐ」、耕研に「つたえる」という機能を持たせ、これらを穂海グループとして有機的・戦略的に運営し、総合農業企業として、「地域の農地を引き継ぐこと、日本の食料自給に貢献すること」を目指します。これからも私たちは「農場からシンカ」していきます。

4月の例会プログラム

例会日	プログラム	会場
4月7日	観桜例会 <夜例会 18:30~>	アートホテル上越
4月14日	卓話 株式会社新潟日報社 統合推進センター 荒井雅美 様 演題 「鮭プロジェクトの取り組みについて」	デュオ・セレッソ
4月21日	会員卓話 渡邊 隆君 / 演題 「人生いろいろ！」	デュオ・セレッソ
4月28日	祝日振替休会日	